

【働くことについて】

幼稚部小学部 部主事

みなさん、いきなりですが、社会に出るってどんなことだと思いますか？ 社会に出たらどんなことが必要ですか？ なんて聞かれても、やったことがないことに答えることは難しいと思います。なんとなくですが、「社会に出たら働く」、「働いたらお金がもらえる」とか、「家から出て一人で生活をする」、といったことを想像しているのではないのでしょうか。

私は、岡崎盲学校に来る前の学校では高等部にいました。ですので生徒たちと一緒に、卒業後の生活について考える機会がたくさんありました。そこでは、「働く」ことを「他の人の役に立つことをして、ありがとうと言ってもらふこと」と考えていました。

■他の人の役に立つこと

私はハンバーガーが好きです。おじさんですが、ときどきおもちゃ付きのセットを頼んでみたりもします。最近も小さくてかわいいキャラクターのおもちゃをゲットしましたよ。ポテトがカリカリしておいしいですよ。家で再現するのはちょっと難しい。家で揚げると、あそこまでカリッと揚がらないし、塩加減も味もちょっと違うんですよ。違うハンバーガー店にいくと、お肉の焼き方や、パンの感じも違って、まさに王様感が出ています。これも、家で再現できるかというと、ハンバーグのサンドイッ

チは作れますが、ソースやケチャップの味が違っていてなんか違う。何が言いたいかというと、自分が好きなものではありませんが、誰かに作ってもらわないと好きなものも食べられないのです。みなさんはどうですか？ ぜ～んぶ、自分で用意して自分で作れるものって、身の回りにありますか？



私は豊川市に住んでいます。岡崎盲学校まで来るときは、電車とバスを使っています。時間通りに駅まで行けば、車内で好きな事をしている間に目的地まで運んでくれます。鉄道とバス会社の方々が、時間通りに運行してくれるという信頼感があるので、安心して毎日通勤することができているのです。

遠回りになりましたが、私たちは、常に誰かが行動した結果によって、自分の好きなことができたり生活できたりしている、ということなのです。

■ありがとう

「ありがとう」と言ってもらったことはありますよね。最近、「ありがとう」と言ってもらった時の様子を思い出してみてください。給食の後に台ふきを手渡したり、近くのものを取ってあげたりなんてときでしょうか。小学部のみなさんの場合は、クラスの係の仕事をしたときにも、友達や先生からありがとうって言ってもらったことがありますよね。私の場合は、子どもに本を買ってほしい、とか、インターネットで買い物をしてほしいとねだられて、商品が届いたときなんかが多いですし、帰りがけに薬局に寄ってきてって頼まれたりしたときでしょうか・・・ 「ありがとう」と言われて、嫌な気分になる人はいません。自分が行った行動に、相手から言葉をかけてもらえるというのは、気持ちのいいことですよね。

■ 麦わらの海賊の船長の言葉

みなさん、体がゴムのように伸びたり、最近では大笑いをしながら空を飛んだりする海賊の船長の話は知っていますか？ 彼がだいぶ昔、サメの海賊と戦っていた時に言っていたせりふがあります。そのまま、載せるとよくないので、ちょっと変えて・・・「自分は助けてもらわないと生きていけない自信がある」ですって。確か、剣も使えない、料理もできない、航海術もない、ウソもつけない、なんて続いていたと思います。



私も、好きなハンバーガーを好みの味に仕上げることも、電車を操縦することもできません。誰かの力を借りて生活していますし、それが社会ですよね。誰かにありがとう、と言ってもらうことが、社会に出るための一歩だと思います。岡崎盲学校が、ありがとうであふれる学校になってほしいな、と思っています。

【自分の「強み」と「課題」を見つめよう】

～ 中学部の取り組み ～

中学部教諭

今回は中学部全体で取り組んだ「進路について考える月間」の様子についてご紹介します。中学部では、5月を「進路について考える月間」として定め、自分の「得意なこと」や「苦手なこと」、「自分が将来どんなことをやってみたいか」や、「自分の夢」などについて一人一人が教師と一緒に、考えました。その一部を以下にご紹介します。

- ① 気持ちのよい「挨拶」や「返事」が自分からできるか？
- ② 先生、友達、お店の人など、相手に合わせた言葉遣いができるか？
- ③ 困ったときや分からないとき、周りの人に質問できるか？
- ④ 自分の「いいところ（長所）」を言葉で伝えることができるか？
- ⑤ 公共交通機関を使って移動ができるか？

などです。これらは、周りの人とつながり、適切に支援を得るためにとても大切な力になります。

◆ 各学年の様子

1年生の様子：

1年生にとっては、初めての進路学習ということもあり、「自分のことを知る」ことから始めました。教師と話し合う中で、自分では気づくことができなかったことをたくさん知ることができた生徒も見受けられました。

2・3年生の様子：

2・3年生は、去年の記録と見比べながら「どんなところが成長したのか？」、「引き続き課題となる部分はこういったところなのか？」などを確認しました。特

に、3年生については、来月に迫った「チャレンジ体験実習」に向けて改善すべきポイントはどこなのか？」ということを改めて確認する良い機会となりました。



◆ 保護者のみなさまへ：

学校生活における中学部での学びの時は、この先の高等部での生活や、さらに先にある将来へとつながっていく大切なフェーズです。では、今のうちにどんなことに取り組んでおけば良いかというと、特別なことは必要ありません。日々の授業からしっかりと学び、学校生活を思う存分楽しむことが大事です。これに加えて挨拶がきちんとできたり、ご家庭のお手伝いができたりすると、将来の進路獲得に有効に作用します。また、保護者の皆様へのお願いとしては、中学部在学中から各種福祉施設などの見学や、お子様の興味・関心がこういった方向に向いているかということを、日々の生活の中でお子様と共有できる関係性づくりを進めていただけますと、より良いキャリア形成につながると考えております。何卒よろしくお願いいたします。

【 宝 島 】

高等部理療科教諭

令和8年度が始まって早くも2ヶ月が過ぎようとしています。ということは、今年度も残り10ヶ月。当たり前のことですが、この3月に卒業・修了を迎えるみなさんにとっては、次のステップを踏み出す時が4月よりもさらに迫ったわけです。まだ具体的な目標が設定できていない人、自分の進路を決定して取り組んでいる人など、それぞれの状況の中で時間は進んでいると思います。私が現在の進路を決定するまでに、考え・悩み・そして選択してきたことは、これまでの宝島を読んでいたいたみなさんはご存じだと思います。十分に時間をかけて進路を決めたつもりでしたが、一つの仕事を長く続けることによる自分の変化や思いについてまでは想像が至りませんでした。普通科を卒業するみなさんと職業科を修了するみなさんとは、進路先で過ごす時間に差があると思います。しかし、それぞれの進路先で過ごす時間は学生のときよりも長いことは間違いありません。本校で準備期間を過ごしているみなさん、次の場所でどんな時間を過ごし、自分が満足して後悔のない人生を過ごすにはどんな場所が良いのか、調べたり考えたりすることはとても大切なことです。実習・見学・体験など、できるだけの機会を有効に利用することをお勧めします。そして、このDREAMの内容も一つの情報源になることを祈っています。

さて、今回は昨年度紹介したスポーツトレーナーを目指した内容の2回目です。

21.スポーツトレーナー②

格闘技の分野で私たちの技術が生かせないだろうかとアントニオ猪木さんを訪問しましたが、残念ながら進路につながることはありませんでした。しかしその後も、先生方は私たちに貴重な学習の場を提供してくださいました。今回はその中から、プロ野球のチームトレーナーについてご紹介します。

当時、読売ジャイアンツに、文京盲学校の卒業生がチームトレーナーとして勤務しておられました。お名前や年齢、卒業の時期など、その方の詳細については覚えていないのですが、特別講義の講師として私たちの学校に来てくださいました。その講義では、選手に行う具体的な施術方法や試合後のケアなどについての説明がありました。特に印象的だったのは、試合後のピッチャーはすぐに肩をアイシングするという話題でした。試合や大会後は筋肉痛に悩まされている私たちとは「全く違う世界だな」と、プロスポーツ現場の緊張感を感じました。残念ながら当時活躍していた選手については具体的な情報は話せないとのことで、簡単なエピソードしか聞くことができませんでした。ただ、江川卓さんが最後に鍼施術を受けた場所についてはお話ししてくださいました。その講義の後私たち生徒の中には、もっとスポーツ選手に対する施術について知りたいという人も出てきました。私はといえば、ちょうど自身が陸上の短距離に取り組んでいて、毎日の練習や筋トレによる体の変化を感じていたので、プロ野球選手の体つきや筋肉の状態に強く興味がありました。「直接触れてみたい」、それが希望でした。



そんな私の思いは先生方にも理解していただいたようで、読売ジャイアンツに見学をお願いをしてくださいました。しかし、関係者以外の立ち入りが強く制限されているとのことで、その願いはかないませんでした。ところがです。当時副担任をされていた先生がおそらくご自分の趣味もあっ

たと思うのですが、ファンである東京ヤクルトスワローズに再度お願いをしてくださいました。どのようなやり取りがあったのかは分かりませんが、球団の方がマイクロバスでお迎えに来てくださり、選手宿舎にいて選手に直接会えるということになりました。

宿舎では、池山選手、広沢選手、古田選手など、当時ヤクルトで活躍していた一線の選手のみなさんが会ってくださり、私たちの施術を受けてくださいました。この期に及んでという印象もありますが、実は私は中日ドラゴンズを応援しており、小学5年生の時から点訳されている「プロ野球選手名鑑」を愛読していたので「ドラゴンズの選手に会いたいな」なんて

ことを考えていました。しかし古田さんに施術をすると、そんな考えはどこかに飛んで行ってしまいました。とても気さくな感じで話しかけてくださり、私の施術に対しても「とても気持ちいいよ」と感想を言ってくださいました。がっ



ちりとした大きな体に、「これがプロ野球選手の体なんだ」という興奮もありました。これを機に、スポーツトレーナーへの興味が一気に増しました。それは私だけではなく、スポーツに興味がある男子生徒の何人かも同じ気持ちだったようです。

ところが…。なぜ私がスポーツトレーナーを目指さなくなったのかは次の宝島で紹介したいと思います。今回は野球がテーマだったので、昭和時代のスポ根アニメをまねて「次回をお楽しみに」とします。

【オススの障がい福祉施設】

進路指導主事

進路相談などで、保護者の方から「先生のお勧めの福祉施設はどこですか？」と質問されることがあります。しかし、生徒本人やご家族が事業所に期待する支援や希望する活動は各々異なり、さらに送迎や昼食準備等の家庭で対応できることの範囲も違います。そして、施設側の受入れ状況についても、視力だけではない眼の見え方や活動の適性によって大きく変わってきます。そのため、ある程度の情報やアドバイスをお伝えすることはできますが、一概に「この事業所がお勧めです」と限定することが難しい状況です。

高等部卒修後に利用できる成人対象の障がい福祉サービスには、[生活介護]、[就労継続支援A型]、[就労継続支援B型]、[就労移行支援]、[自立訓練]など、さまざまな種類があります。そして、その中の[生活介護]サービス一つとっても、事業所毎に運用内容や支援方針は大きく異なります。例えば…



- ・ 作業活動中心の施設
 - ・ 創作活動中心の施設
 - ・ 少人数定員で指導員の目が行き届きやすい小規模施設
 - ・ 組織的体制が整い、体系的な支援を行う大規模施設
 - ・ 栄養士が施設内で作る温かい食事を提供する施設
 - ・ 価格を抑えた配達弁当を提供する施設
 - ・ 工賃の高さを重視する施設
 - ・ 工賃額より支援員の手厚い配置を重視する施設
 - ・ 送迎サービスが充実している施設
 - ・ 段差や狭い通路等が少ない環境的なバリアフリーに力を入れた施設
- 等々…さらには、活動時間や休業日、施設のもつ雰囲気そのものも大きく異なります。

また、「視覚障がい者のための福祉施設をできるだけたくさん教えてほしい」と依頼されることもあります。しかし現状、視覚障がいを主な支援対象とする三河地区の福祉施設は…

- ・岡崎市の就労継続支援B型事業所「愛ポート'05」
- ・豊田市の訪問介護事業所「つえの里」
- ・豊橋市の就労継続支援B型事業所「てのひら・陸」
- ・豊橋市の就労継続支援A型事業所「てあてる鍼灸マッサージ院」
- ・豊橋市のグループホーム「ハンスホーム」

など、ごく一部の事業所に限られています。また上記の福祉施設であっても視覚障がい者であれば誰でも利用できるというわけではなく、それぞれの事業所側において利用者を選考しています。また、お住まいの地域によってはこれらの事業所に通所することが難しい場合もあります。そのため、



これまで多くの卒修生については、上記の事業所だけでなく、さまざまな障がい福祉施設をご家族で見学・相談されたうえで、希望や条件、そして個々の障がいに適した活動等を考えて進路先を決めてきました。

福祉施設を選ぶ際には、実際に足を運び、活動の様子を見て、話を聞き、場の雰囲気を感じることが大切になりますが、最初のステップとしてインターネットサイトを用いて施設の概要を調べる方法があります。その中の一つに、WAM NET という厚生労働省の管轄下で運用されている公的なホームページがあり、簡単に障がい福祉施設の情報を知ることができます。右記のQRコードからアクセスできますので、ぜひご活用ください。



この WAM NET 中の「障害福祉サービス等情報検索」で調べると、令和8年6月現在、例えば岡崎市内だけでも300を超える成人対象の障がい福祉サービスが運用されていることが分かります。それぞれのページの中で、活動内容や地図上での所在地、支援対象者などの情報を閲覧できます。サービス内容を確認のうえ、まずは自宅に近い地域の事業所から検討していただくことをお勧めします。また、相談支援事業所に登録し、担当の相談支援専門員から現場の情報を聞くことも有効な方法です。



出展：障害福祉サービス等情報検索 (<https://www.wam.go.jp/sfkohyoout>)

ある程度の情報を収集したのち、次のステップとして事業所を訪問し、支援内容の希望や具体的な活動について、福祉施設の職員と一緒に確認します。そのうえで双方の意向が合った場合に、初めて利用検討の段階へと進みます。その後、「産業現場等における実習」を行い、さまざまな場面や状況での適性の確認を経て、最終的な契約の判断につながっていくという流れになります。

以上のように福祉施設の選択は、企業や大学を検討することと同様に、すぐに決められるものではなく、児童生徒一人一人がもつ力や将来の生活を見据え、ご家族の皆さんで時間をかけて考えていくことが大切です。

進路決定までの過程では、迷いや不安を感じることもあるかと思いますが、その都度、担任や進路指導部と相談しながら進めていただければと思います。学校としても、生徒が卒修後も安心して生活し、自分らしく社会と関わっていけるよう、生徒本人の希望やご家族の想いを大切にしながら、進路選択に向けた支援を行っていきます。

お知らせ と アンケート

これまでの進路情報「DREAM」のバックナンバーにつきましては、学校ホームページに掲載しています。下記 QR コードからリンクしていますので、ぜひご覧ください。



また、進路情報「DREAM」についてのご感想やご意見、今後記事にしてほしい内容などがあれば、ぜひお知らせください。今後の紙面作りの参考とさせていただきます。下記 QR コードからアンケートフォームにご記入ください。

